



がっこう 学校だより

**Challenge
Dream
Interaction**

がっこう
5月号



れいわ ねん がつ にち
令和8年4月30日
よこはましりつかみいだいしょうがっこう
横浜市立上飯田小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamiida/>

みづか まな みらい ひら まな ね そだ 自ら学び、未来を拓く「学びの根っこ」を育てる

のう はったつ じが めば よ そ かていがくしゅう かた
～脳の発達と自我の芽生えに寄り添う家庭学習のあり方～

こうちよう しみず こういち
校長 清水 浩一

ひごろほんこうきょういっかつどうたいただいりかいきょうりよくかんしゃもうあ
日頃より本校の教育活動に対し、多大なるご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

ほんこうこんねんどとくかていがくしゅうしゅうかんかじゅうしがくしゅうしゅうかんたんがくりよく
本校では今年度、特に「家庭学習の習慣化」を重視しています。学習習慣は単なる学力
こうじょうしゅだんじぶんりっみちことがらちようせんいちからきそとなるものと考え
向上の手段ではなく、自分を律し、未知の事柄に挑戦する「生きる力」の基礎となるものと考え
えています。心身が劇的に変化する小学生の時期に、ご家庭でどのように接していただけると
しんしんげきてきへんかしょうがくせいじきかていせつ
よい、脳の発達や心理面の変化からお伝えします。参考にしていただければ幸いです。

じきしこうかんじょうつかさどこのうぜんとうぜんやきゅうそくはったつみせいじゆく
この時期、思考や感情を司る脳の「前頭前野」は急速に発達しますが、まだ未成熟です。
かんじょうおさみとおたおとないじょうひつよう
感情を抑えたり見通しを立てたりするには、大人以上のエネルギーを必要とします。この時期の
しゅうかんしゅうかんもつとたいせつこのうかっぱつうごあんしんかんはや
習慣づくりで最も大切なのは、脳が活発に動くための「安心感」です。「早くしなさい」「なぜ
できないの」といった否定的な言葉は、脳にストレスを与え思考を停止させてしまいます。まずは
つえむおんびつもこうどうじたいみとあたたみまもほ
「机に向かった」「鉛筆を持った」という行動自体を認め、温かく見守ってください。褒められ
たり達成感を得たりした際に分泌されるドーパミンが、次のやる気へとつながります。

ちゅうがくねんころじがめばしじはんぱつふじりつあかし
また、中学年頃には自我が芽生え、指示に反発することも増えます。これは自立の証です。
じきおやすべきこどもじしんえらこどものはんそうしゃへと
この時期は、親が全てを決めるのではなく子ども自身に「選ばせる」こと、子どもの伴走者へと
すこしずつシフトしていくことが有効です。「何時から始める?」「どの教科からやる?」といった小
せんたくほんにんゆだじぶんきじこけていかんせきになかんう
さな選択を本人に委ねてみてください。自分で決めたという「自己決定感」は、責任感を生み、
じりつてきがくしゅうしせいはく
自立的な学習姿勢を育みます。

しゅうちゅうかんきょうととのねが
そして、集中できる「環境の整理」です。テレビを消す、机を整えるなど、自然と集中できる
かんきょうととのねが
環境を整えるサポートをお願いします。

しゅうかんかいつちよういっせきなとていたい
習慣化は一朝一夕には成し遂げられません。停滞することもあるでしょうが、その葛藤さえも
じりつたいせつわたしきょうしよくいんじゅぎょうとおしよるこつたがっこう
自立への大切なプロセスです。私たち教職員も、授業を通して「知る喜び」を伝え、学校での
まなかていたんきゅうしんつとがっこうかていぐるまりょうりん
学びが家庭での探究心につながるよう努めてまいります。学校と家庭が「車の両輪」となり、お
こせいちようしんともあゆおも
子さんの成長を信じ、共に歩んでいただければと思います。